

円通寺だより

令和元年 6月
第 110号



さるべき業縁のもよおせば

元号が新しく変わったことで異様とも思えるような盛り上がりでしたが、私には元号云々より天皇陛下の生前退位が実現したことが画期的であり、ある意味ほっとしました。譲位の希望が通ったことは喜ばしいことだと思いましたが、それにしてもその希望が実現するために9年？あまりかかったことを知り、なんとやっかいな国家だろうとも思いました。

さて、元号が新しくなろうとなるまいと衝撃的な事件や事故が相変わらず世間を騒がせています。高齢者による車の暴走事故は同じ高齢者の一人として身につまされる思いがします。小さいお子さんが犠牲になった事故は、ニュースで流れるたびに涙がこぼれました。車の運転に一段と気を引き締めています。いつ運転をやめるかとなると現状はなかなか厳しいです。小学生を襲った無差別殺人はあまりにもむごたらしく理不尽としか言いようがありません。この事件を巡ってネット上で論争が起こっているそうです。「死にたいなら一人で死ねばいい。他の人を巻き込むな。」という意見に対し、「死にたいなら一人で死ね」という言い方は、精神的に追い詰められている人間を刺激し、同じような事件を誘発しかねない。言うべきではない。」という意見。さらに、「遺族の気持ちになって考えろ。」など。

その後、その事件の影響があったのではと思えるような事件が起きました。元官僚の父親が引きこもりで家庭内暴力を繰り返していた息子を包丁で刺して殺してしまった事件です。父親は、息子が川崎市で起きた事件のように小学生に危害を加えることを恐れたと言っているそうです。「死にたいな

ら一人で死ねばいい。他の人を巻き込むな。」というネット上の意見に父親が反応したようにも見えます。どんな理由があろうと人を殺すことは許されませんが、この父親の心情も理解できます。むしろ今は後悔よりもほっとしているかも知れません。今回の事件では、引きこもりに対する偏見も危惧されています。無差別に人を傷つける犯人に同情の余地はありませんが、そこまで追い詰められる前に何か対策を講じていく必要があるのだらうと思います。人ごとではなく、いつ自分もそのような立場になるか分からないという危機感を持ってみんなで考えていく問題ではないでしょうか。親鸞聖人も「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」とおっしゃっています。 合掌



お知らせ

令和元年 6月 29日 (土)

祠堂経会

朝事 午前 8時半

日中 午後 2時

速夜 午後 3時半

6月 30日 (日)

朝事 午前 8時半

日中 午後 2時



講師 石動 称名寺 立島秀哲 (たつしまひであき) 師

護法会 (河合谷地区の物故者追悼法要)

7月 1日 (月) 1時半より

会場 牛首 性善寺

法 語

十方の如来は 衆生を一子のごとくに憐念す

